

# 来週の金融市場見通し

< 2/5 ~ 2/9 >



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第338号  
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

米連邦準備理事会(FRB)は1月30、31日に開いた米連邦公開市場委員会(FOMC)で、4会合連続で政策金利を据え置きました。会合後の記者会見でパウエルFRB議長が、次回の3月会合までに利下げ開始を確信できるレベルに達する可能性は低いと述べたことを受け、3月の利下げ観測が大きく後退することになりました。来週は、2日発表の米雇用統計を受けた米金融市場の反応に加え、内外の経済指標や本格化する国内企業の決算発表などを確認しながら、方向感を探ることになりそうです。

## ◆株価：上値の重い展開が継続か

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 35,600~36,600円 (2月) 32,500~38,500円

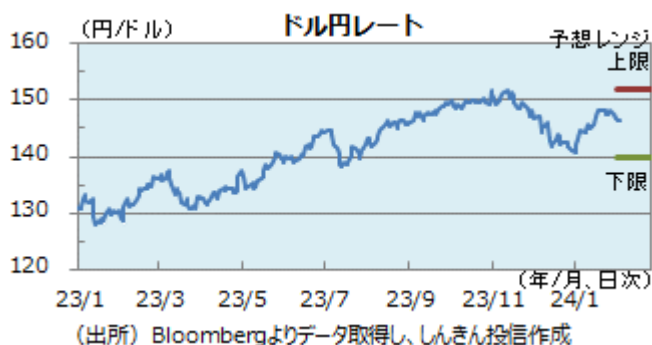


日経平均株価は海外投資家の資金流入により1月に一時37,000円に迫る水準に上昇した後、今週は高値警戒感から上値の重い展開が続いています。来週も、日銀の金融政策修正観測などが重しとなり、上値の重い展開が続きそうです。また、今週末の米雇用統計を受けて米金利が上昇すると株価を圧迫する可能性があります。ただ、来週に予定されているトヨタ自動車などの国内主要企業の昨年10-12月期決算が良好な内容になると株価を支えそうです。

## ◆為替：下値模索、雇用統計で波乱も

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 145.0~148.0円 (2月) 140.0~152.0円



ドル円は、じりじりと下値余地を模索する展開となりそうです。堅調な米景気を示唆する経済指標が散見されることから、米長期金利の低下余地は限定的とみられるものの、早期利下げ観測は強く、米長期金利は3.9%程度まで低下しています。それを受け、ドル円は下値余地を模索する展開となりそうです。とはいえ、日米金利差は依然、ドル円の強い下支え要因であり、1月の米雇用統計次第では波乱も想定される中、下値余地は限定的とみられます。

## ◆長期金利：居所を探る

【予想レンジ】長期金利(新発10年債利回り)

(来週) 0.60~0.72% (2月) 0.50~0.85%

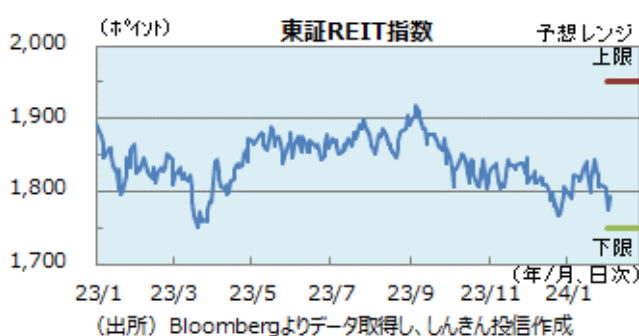


日銀が公表した1月会合の「主な意見」で、マイナス金利解除などの金融政策の正常化に前向きな意見が目立ったことから、長期金利は一旦上昇しましたが、米金利の低下や10年国債入札が無難な結果となったことを受け、0.7%を割り込みました。ただ、日銀の政策修正も意識され、一段の低下は限定的となりそうです。来週は米雇用統計を受けた米金利の動きや、30年国債入札などを確認しながら、居所を探ることになりそうです。

## ◆Jリート：戻りを探る

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,780~1,830ポイント (2月) 1,750~1,950ポイント



東証REIT指数は、日銀のマイナス金利解除の時期が近づいているとの見方から長期金利が上昇したのが重しになり、軟調な動きが続きました。ただ、週末は長期金利の低下を好感した買いや、値ごろ感からの買いも広がり、下げ幅を縮小する動きになりました。1,800ポイント割れの水準では割安感から、押し目買いが入ると見込まれ、また利回り面での投資妙味も高まることから、底堅い動きの中、戻りを探る動きになりそうです。

■来週的主要な内外スケジュール

	国内	海外
2/5 月	10年物価連動国債入札	経済協力開発機構（OECD）中間経済見通し 米ISM非製造業景況指数（1月） ユーロ圏生産者物価指数（12月） 豪中銀・金融政策委員会（6日まで） 中国、預金準備率引下げ実施
2/6 火	家計調査（12月） 毎月勤労統計（12月、速報値）	米3年国債入札 ユーロ圏小売売上高（12月）
2/7 水	30年利付国債入札 景気動向指数（12月、速報値）	米10年国債入札 米消費者信用残高（12月） 米貿易収支（12月） 中国外貨準備高（1月）
2/8 木	国庫短期証券入札（6か月） 貸出・預金動向（1月） 景気ウォッチャー調査（1月） 東京都心オフィス空室率（1月） 国際収支（12月）	イエレン米財務長官の年次報告証言（上院銀行委員会） 米30年国債入札 米卸売在庫（12月、改定値） 米新規失業保険申請件数（2/3終了週） 中国生産者物価、消費者物価（1月）
2/9 金	国庫短期証券入札（3か月）、5年利付国債入札 マネーストック（1月）	米独首脳会談（ホワイトハウス）
2/10 土	—	◎中国春節（旧正月、17日まで）

（注）スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。

（出所）各種報道を基に、しんきん投信作成

■来週の注目点

景気ウォッチャー調査（1月）2月8日（木）14時00分発表

景気ウォッチャー調査の現状判断指数（DI）は、12月に前月差1.2ポイント上昇の50.7と、4か月ぶりに50を上回りました。忘年会やクリスマス商戦が消費を押し上げ、家計動向関連、企業動向関連ともに上昇しました。

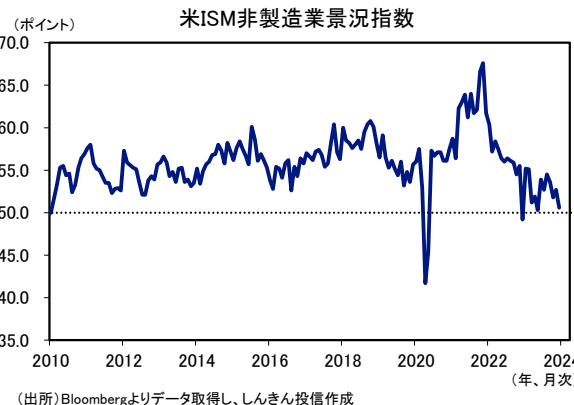
1月の現状判断指数は、横ばいとなりそうです。食品などの値上がり消費を抑制することが見込まれるほか、大手自動車メーカーの不正問題の影響により自動車販売の低迷が予想されることが家計動向関連を押し下げそうです。



ISM非製造業景況指数（1月）2月5日（月）24時00分発表

米供給管理協会（ISM）が発表した12月の非製造業景況指数は、50.6と前月の52.5から低下しました。米国のサービス分野の活動はかろうじて拡大を継続したものの、そのペースは大きく鈍化しました。同指数は50が活動の拡大縮小の境目とされています。

米連邦準備理事会（FRB）によるこれまでの大幅な金融引締めや経済の先行き不透明感、地政学リスクなどを受けて、サービス需要は徐々に軟化しており、今後の動向には不透明感が高まっています。1月の同指数は52.1程度を想定しています。



**<本資料に関してご留意していただきたい事項>**

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のもので、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

**【お申込みに際しての留意事項】****■ 投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

**■ 投資信託に係る費用について**

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

**《ご注意》**

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。